

人の定点

柴田 渥 さん

—自己紹介をいただいてもよろしいでしょうか？

柴田 松原町内会の事務局長をやっております、「柴田渥(しばたあつ)」と申します。

—町内会の事務局長さんですね。はい。では、その他に兼任している役職があれば、、結構ありますか？では、代表的なもので。

柴田 うーん、そうですね、「生涯学習スポーツ課」の中の社会教育委員・副議長をしております。それから、「釜石市環境審議委員会」の委員です。他に、釜石女性フォーラムの代表をしておりますね。

—それ(釜石女性フォーラム)はどのような活動をなさっているのでしょうか？

柴田 女性の視点で色々な課題をトークしたり、調べに行ったり、それから自分たちで問題の解決の方向に動いてみようという。まあ意気込みはいいんですが(笑)

昭和62年あたりからやっているの。その頃、私は代表ではなかったんですけども、色々時代が変わりまして、(今は)代表をしております。

それから「明日の架け橋・女性の会」という会も。この会の中でも、事務局長をやっています。あと、「釜石ロード・女性の会」の事務局長もしています。お世話役とか、色々考えてやるには、「事務局長」が一番いいのよね。

—なるほど。いや、忙しいですね。

柴田 まあ、その他もろもろ、甲東幼稚園の理事とかね。細かいのがいっぱいあるんだけど、まあこのような感じです。

—松原町内会の事務局長をされているとのことなんですが、松原地区のなかの役割としては、(事務局長というのは)どのような役割を担っているんでしょうか？

柴田 役割としましては、まず、町内のあらゆる課題、あらゆるお世話役とか、そういうものを一手に網羅して、とりまとめ、動く。というのが事務局長の役割だと思いますし、町内だけでは

なく町外の事に対しても、連絡などの調整係をしております。

一番大変なのね。資料集めて、自分で作って印刷してね。

一では、最近の松原で何か変化があったことなどは、ここ1～2か月くらいの間にどうでしょう？

柴田 1～2か月では特に変化はありません。

一じゃあ、2012年度に入ってから、何か変化はありますか？

柴田 そうですね、(目立った変化は)特にはないですけども、総会を行ったんです。2年ぶりに。去年は、総会を開ける状態ではなかったもので。町内の定期総会ね。それを先月(6月)に開いたということです。

実は、今度会長になる方が、もともと副会長をされていた方で、会計も担当していたんです。事務所が国道283号線沿いにあったんですよ。それが津波で全部流されてしまって。通帳なども全部。帳簿も資料も。パソコンだけはかろうじて持ってきたけれども、自身の仕事関係のパソコンだったので、町内会関係のものは全て流されてしまいまして、資料一枚残っていないのですごく大変なんですよ。それでもどうにか決算報告とかは辻褄をあわせてね。で、郵便局の手続きが一番大変なのね。まだ、(会計の)発行が間に合わないような…。経過報告につきましては、皆さん、松原を出て行った方たちもわかっていることなのでね。そこらへんはスムーズにできたんですけど。やはり会計の事は足踏み状態です。

昨年度は、町内会費を集めていけませんので、貧乏なんですよ町内会はね。それでね、自主防災会の方に、「特別基金」ということで、決算報告後の余剰金。残ったものを全部防災会の方に回しているわけ。そこで少し積み立てがあったので、それで災害の時も賄うことができたんですよ。結構ね、避難所をやっていたわけでしょう？ そうすると、出費がすごくあるわけですよ。本当にね、食べることが一番大きかったの。例えば、物資では、なかなか豆腐とかこんにゃくとかこないのね。朝昼晩の味噌汁の分とか、それから食の中に変化をつけてね、皆さんを少しでも日常の食生活に返してあげようと思うので、そこらへんは努力してお金を使わせてもらいました。で、どんどんお金が無くなっておりましてですね(笑)。

今回の総会が終わった後に、皆さんにまたお金もいただいているし、あと、仮設なんかに行っている方にはね、強制は出来ませんのでね、あくまでも「協力」という形でいただきますということを会報で呼びかけたんです。そうしたら何人かの方は持ってきてくださってね。見ます？
会報。

一見ます。

柴田 「会費を集めます！」だと、色々とあたりさわりがあるのでね。私はね、二か月に一回は会報を書いているんですよ。暇だから(笑)

ということでね、松原町は昨年は会費を集めてなかったものですから、今年度、やっと会費を皆様からいただくということにして、今、班長活動…。班長の人たちが動いております。班がありましてね、だいたい班体制で行ってるわけです。地域の中をさらに細かくね。その方たちが、会費を集めてくれたり、プリントを配布してくれたりという役目を担ってくれているわけです。

あとはね、先日の日曜日に公園の草取りをしました。これは、毎年クリーンアップ釜石ということで市のことでもあったんですけれども。松原町の清掃という事でずっと継続していました。ご覧のとおり、下の方は草ぼうぼうだけれども、みなさん刈る元気がないということなので。いずれまた(家の)土台がしっかり壊されたりしていくので復興計画に合わせようと。公園と、コミュニティのまわりの草取りだけしましたし。あとは、特別に変わったところは特にはありません。ただ、松原会だけはね、町内会費をいただくとかいただかないとかに関係なく続けていこうという約束事はしています。

—これからの予定とか、やっていきたいことなどがありましたらお願いします。

柴田 まず、1つ(①)はね、この松原地区の復興計画に基づいた進捗状況の確認をしていくという事です。いつから何が始まって、今は何をしているのかそういうことを把握していきたいなと思っています。目に見える復興さといいいのですが…。

2つ目(②)には、これは松原町の要望でもあるんですが。のちのち、復興アパートが建設されたり、普通の家が建ったり。もちろん復興計画によって、土地が高くなったり(かさ上げ)状況は変化していくと思うのですが。避難道路がほしいと考えています。避難道路(建設)の陳情ですね。これを説明するとは国道側ではなくて、私たちの要望は製鉄所側に抜ける道路を…。もちろん製鉄所の了解も必要だし、整備も必要なんだろうけれども。もう少し深めて町内で話し合いたいと思っています。

3つ目(③)はね、ここ(松原)の沢を「保育園沢」と呼んでいます。もともと、その公園には松原保育園があったんですよ。沢には「荒神沢」という正確な名前がついていますが、それだとよくわからないので。平成14年に、ここの沢と荒神沢が2つ、決壊したんです。つまり、鉄砲水。荒神沢では、死者が2名出たの。こっちはね、死んだ人はいなかったんですが、住宅が流されたり、押しつぶされたりして、被害もあったわけです。荒神沢の方にはね、すぐ、砂防ダムが出来ました。小さいダムだけれども、人が死んだという事でね。こっちの方はね、却下されたんです。

—何も対策はその後もされていないと？

柴田 市も県も、努力はしているんだけど、出来ない事情があるんです。というのは、この沢の半分は個人の物、あとの半分は共有財産なわけですよ。共有というのは、何十人かで組んで山を持ってるってことなんです。昔はね、そこの役員の人たちが「いい」となれば、砂防ダムや治山ダムを計画・実行できたみたいなの。でも今は、すごく法律・法令で厳しくなっていて、県も国もそういう法令を壊す特別措置みたいな動きは…。今は津波の関連のみで余計何も出来ないわけです。それでいつも調査には入ってもらい、みなさん(対策が)必要なのはわかっているんだけど、それがなされないというのはその持ち主の問題…。九州の方に(所有者が)行っているとか、代がかわって誰だかわからないとかいう人がいるのでそこが解決しない限りは此処には砂防ダムはできませんということなのね。

でも、だからといってあきらめていると忘れられてしまうわけ。保育園沢にも、世帯が住んでいますし。それから、水も土砂も高い所から下の方に流れるのは当たり前のことですよ？ここが決壊すると、ここら辺の家、このコミュニティー、それから松原は坂になっているので、全部に影響があるわけね。そういうのを考えるととても危険なわけです。

県の方でも「危険区域」にね、なってるわけですよ。でも、砂防ダムは出来ない。それでも諦めないで、毎年でも、一年おきでもいいから陳情活動は続けていこうと。そうしていかないと、例えば県知事とかそういう人に伝わっていかないと思うの。いつかの時代にはね、(砂防ダムを作れない)法令があったとしても、困っている人たちに対しては特例措置をこうしてもらえるように、陳情活動をしていかなければならないということ。

というわけで③は「土砂災害への対策」ということです。で、③は②にかかわるわけね。つまり、今回の海からの津波で下は壊滅状態。実は台風14号の時も、国道が水浸しになって、3丁目が田んぼみたいになって、どこも行けない状況。孤立してしまうんですよ。今回は津波の事で道路もいずれ整備されるでしょうし、高くなると思うんだけど。それがどの程度になるのかはわからないし、できれば松原町もそうだけれども、嬉石町も松原を通して、そして製鉄所の方に抜けていける道があれば…。

それを避難道路といいますが、それがあれば避難できる先が鈴子方面。私は、教育センターが凄くいいと思うのね。まあ津波の時も避難所になりましたが、土砂災害でも私は横軸の避難場所として鈴子の教育センターとか、テントの中でもいいし(夏だったらね)。そこが適当だと思っていました。だって、私たちはどこへも逃げようがないですもの。

一上に行くしかないですもんね？

柴田 ええ、だから土砂災害が来て、皆さんがどこに避難するかといたら「こっちが大丈夫だからこっち？」とかね、どこに逃げたらいいかわからないでしょ。

そういうことも考えながらね、活動していきなきゃならないということ。

それから、④は、「町内会活動」の持続というか、、やはりずっと続けていかなければならないと思っていました。人も代わり、色々と変わっていくのですが、人材不足なんです。若い人た

ちは、働いているから日中はいない。うちには高齢者の人が多いとか。私たちもだんだんヨボヨボになってねー。人が少ないので、大変は大変なんですけども、でもそれなりに町内会の活動をしていかなければいけないと思います。というのは、お互いに「運命共同体」だとおもっています。ここの地域は特にね。だから、人のふりだけではなく、、、「人のふりは自分のふり」と同じだからね。

一わかりました。それでは、今、(松原地区に)支援などは入ってきていますか？

柴田 支援の問題ですか？今、支援は入って来てはおりません。ただ、1件。当時からの支援者で栃木から来ている「飛行船」という方たちが、尾崎白浜とか桑の浜とか、大槌の方まで行っているみたいなんだけど。野菜とか、果物とか、お肉とか色々な物資とか運んできてくれているみたいなんです。でね、松原に、私の家にも顔を出してくれるんです。「柴田さん元気？」という感じでね。私もたまに、ミカンをいただいたり、大根をいただいたりね。みんなで分けられるものは近所の人たちに分けているし、あとは10日の松原会に使えるものは取っておいて使うけれども。(支援と言えば)そのくらいですね。

一では、例えば町内会の方から色々な要望がでているかもしれないですが、そういった要望などがあればおしえていただけますか？

柴田 ないですね。ないのか、言えないのかはわかりないですけども(笑)

ていうのは、被災当時、ここは40日間停電だったのね。大体一か月間、水道も出ない、ガスもダメ、ライフラインがストップしちゃった時期が長くあったわけ。そうすると、ここの避難所も大変だったけど、皆さんの各家庭でも大変だったわけ。みんなで分けられるものはわけて提供してきたんですけども、特に食に関しては食べることも大変だろうと、ここ(松原集会場)の台所を使って町内の皆さんの分まで炊き出しをしたんですよ。約50日。徐々に皆さん電気が点くようになってからは自力で生活してもらうようお願いをしたんですけども、それまではすごく大変で。どんな場合でも色々なトラブルはつきものだから。

市からいただいた物資、それから松原地区に送られた物資、それから皆さんが運んできてくれた物資とか、全部含めてストックしておいたんです。で、ここは、倉庫が無いところなのね。で、私の家の隣の方や、他の方の家の倉庫、車庫に缶詰類を積みさせていただいたり、お米なんかもね、たくさん積んだんだけど。そのおかげで、町内の方たちに、水、米、お菓子、缶詰、インスタントラーメンなんかを約8回くらい配ることが出来ました。もちろんここで生活していて、仮設に行った人にもあげましたし、しばらく経ってから、カレー類をみなさんに配ったりね。何回かに分けて提供してきたんです。私らも、持ってもしょうがないしね、在庫を。もちろん水なんかは、賞味期限がありますしそういうものも持っているわけにもいかないですしね。

回りくどくなったけどもね、そういう活動を行ってきたので、皆さんからは何にも意見も出て

こないんだと思うよ。そりゃあ、細かい事はあるかもしれないけれども、それはとりたてて町内会の活動として取り上げるようなことでもないで、特にないですね。

―活動する中で、困ったこと、良かったことなどを教えていただけますか？

柴田 元気な人たちが少なくなったということでしょう。人数も少なくなったし。住んでいる人たちの移動もあって元気な人たちが少なくなった。

―どのくらい、町内会では人数が減ったんですか？

柴田 230 人くらいいた世帯が、今は 70 世帯くらいしかいないんですよ。で、実はアパートが 2 つあって、アパートの方たちも入れるとおおよそ 90 世帯位になるんですけども。アパートの人たちは、いつ入居してきていつ出ていったのかわからないもので。

―じゃあ、戸建ての数が 70 世帯位なんですね？

柴田 はい、だからちょうど減少は 3 分の 1 なのね。人口もだし、あとは、家なんかもね。

―良かったことはどうでしょうか？

柴田 防災絡みなんだけれども、防災活動っていうのは平成 15 年あたりから、平成 14 年に、そういう土砂災害で被害を受けているのですごく活動に対しては、真面目にね、積極的に取り組んできたの。それで、今までは組織があったんだけど、活動っていうのはなかなか、学習会をすとか、防災のイベントなんかあるじゃないですか、そういうのにも参加もあまりしないし、市自体もあまりそういうのを開いてこなかったところがあって。その土砂災害以降ね、結構積極的にやってきましたし、町内会独自で救急法の勉強をしたり、よそのフィルム(映像)を見たり、みなさんで「津波の時はてんでんこで逃げようね」とか、もしそばにヨロヨロして歩けない人がいたら手をひいてあげることはあるけれども、わざわざその人の家まで行って助けに行くと自分の命も危険にさらすようなこともあるので、そこらへんは気を付けながらやっていこうねとか、そういった学習ですよ。そういうのをずっとやって来て、毎年一回 3 月 3 日に避難訓練やるじゃないですか。参加率はいいほうではないの。ただ、今回の災害を受けて訓練に出ていた人のほとんどは避難所にはしってきました。おばあちゃんたちも。成果はありましたよ。

特にね、国道から向こうの 3 丁目の方、あそこらへんは意外と貸家とかがあって、独居老人が多かったところなのね。その人たちが一番早かったです、避難するのが。だからね、そういう意味ではやっぱり危機意識みたいなものはあったと思います。だからね、それを見ると「あ、良かった良かった」と思いますよ。成果の一つだったと思います。死んだ人にはね、本当に気の

毒なんだけれども。出来る限りの積極性というか、やれることはやってもらってるから。確かにね、なんていうのかな、至れり尽くせりではないんだけど。町内会活動って、難しいですよ。ここからここまでやればいいってものではないから。

―市、行政、外の地域に向けて伝えたいことがあればお願いします。

柴田 どの町内でもそうだと思うけど、個人的なものも含めてですが(松原は)すごく連携をとっている町内会だともっています。でも、うちの会長に言わせると「あんたばかりだよ連携とってるのは(笑)」

でもね、それでもいいと思う。誰か一人でも、行政関連に連絡と、連携をとれる者がいればいざというときの備えですごく頼りになると思います。事実、土砂災害以降はね、そういう感じで助けられてきましたから。

市に関しては、言いたい事は、まあ特にはないね。ただまあ、細々した日常の、例えばさっき言った避難道路の事とか、それから…。ああ、具体的な方がいいんだね？

―あれば、でいいです。

柴田 今、復興計画準備中というか、途中だから。復興計画の、段階だから。これから町内の、家が無くなったところの基礎部分、土台も壊したり。それから今、もう終わったのかな、測量。測量が終われば、次の段階に入って行ってね。来年の3月まで、色々調査したその後で、今度は具体的に何センチ、何メートルの土盛りとか色々決まってくる訳でしょ？その段階があるので、今細かいことをお願いしてもどうしようもないこともある。というのは、側溝の問題ね。町内の道路は、大まかに分けて3本。その側溝が、全然蓋が無いとか危険なところがあちらこちらにあるのね。で、今言ったところで、今直しても、どうしようもないわけ。でもそこらへん危険だからどうにか、対策をとってもらわなければいけないなとは思うし。

―鉄の板とかかぶせたりすればね、、その程度でもいいから。

柴田 なかなかねー、難しいんだっけね。

―あれ、車はまっちゃいそうですね

柴田：うん、危ない危ない。ほんとに。灯りのことは、やっと市に点けてもらったから。騒ぐもんだから(笑)「暗い～暗い～」っていうもんだからさ(笑)

あとは、早く、一日でも早く、出てる人たちのね、仮設に。あと、市の内外に出ていってる人で、松原に戻りたいって言ってる人たちの要望を聞きいれてね、復興アパートとか、家がね、建

つことが出来るようにしてもらいたいっていうのが一番早急で大きい願いだね。

—この間、新聞を見て、平田の方にはアパートが出来る(予定)じゃないですか？ほかの地域って計画はあるんですか？

柴田 平田と、野田が先で。

—野田はどの辺に(出来るんですか)？

柴田 野田は、野田団地わかるでしょ？坂上がって行って上の方。上の方にね、教員住宅ってあったんですよ。促進アパートがあって、その横の方に古い教員住宅があるの。あそこを壊して、建てるみたいなの。絶対津波がこないところ。そこが出来て、おいおい(ほかの地域も)出来ていくだろうけど。ここ(松原)は後回しみたい。あのね、あそこが先かな？天神町。あっちの方が先で、あそこを空けない限り、あそこら辺の整備は不可能。

ていうのは、色々、予測だけどね。市庁舎の問題、文化会館の問題とかあるわけですよ。一つを動かせば、一つも続き。関連性があるみたいなので。あそこら辺の開発が、これから5年10年後。いずれアパートだけでも、早く早くって。高齢者が多いので待ってるんですよ皆さん。そしてこれはみんなの所にもニュースが行っていると思うんですけど、今、新町の方の道路が、立ち退きとか色々あって工事が入ってますけれども。昭和園の一部、それと桜木町の一部がその工事に架かるので、まして昭和園は製鉄所に返さなければならない土地というのもあって今年度中にも移動になるんじゃないのかなあ。だから、(昭和園の仮設に住んでいる人は)どこかの仮設に移る形になっていくような気がします。

そうすると、そこにいる人たち…。松原からは4, 5人なんだけど。移動しなければいけないし、年を取っている人たちにしてみれば、「折角、慣れたのに動きたくない」「だったら早く早く(アパートを建ててくれ)」って思う訳よ。

それで、「集会所に居させてもらえない？」って言われちゃってさあこの間。「ここでいい」って。お願いできない？って。いざというときはさ、いいんだけどさ。なかなかそんな問題もあって。

今大変だよな、市は。「1番2番3番」って(順番)着けるのもさ。

—そうですね。

柴田 工事が入ったりするから、動かなくていいものを動かしてみたりしなきゃないでしょう。

でも、みんな待ってるんだからさあ。そんな感じで、市への要望ってのは、復興に関しての事だね。それと、防災に関して。防災も、夢みたいなこと言っていると、可能性はないわけでしょう。例えば「避難タワーがほしい」とかね。

—それは、欲しいですけど、じゃあ作れるかって言ったら…

柴田 作れない訳でしょう。だったら長い縄はしご作って、山にはしご掛けて山に登って上がれるような、とか。こういう所の山の整備をするとか。そういう小さい、具体的なことがすごく、実現可能でしょ？

—可能ですね。

柴田 町中なんか特にね。避難タワーの高さはほしいと思うのよ。でもね、、、。願望とか夢はいっぱいあるんだろうけどね。そういう思いは、「虚しい」だけで消えて欲しくはない。

—出来るかと言ったら、出来ないですからね。

柴田 松原は、防災面とか、復興の事とかね。くらいですね。話が回りくどくてごめんね。でも未来は明るく素敵なレインボータウンとかになれるようにと。個人的にもう少し頑張りたい。